

卷末附圖説明

三井銀行小樽支店本館
新築工事概要

所在地 小樽市色内町七丁目七番地
工程

起工 大正十五年八月十八日
棟上 昭和二年六月十八日
竣工 昭和二年十二月十日

敷地面積 六九五、七四坪
本館建坪 一八四、六四坪
總延坪 四二九、九九坪
内 譯

地中階 四三、八九坪

各室實用面積（壁内法計算）。

階段室 五、八一坪
乾燥機室 三、二二坪
廣間及ブース 六、七九坪
保護預庫 八、〇三坪
同上周圍廻廊 八、〇七坪
一階 一八四、六四坪
各室實用面積（壁内法計算）。
客溜 三七、七八坪
營業室 八〇、四二坪
第一應接室 三三、七八坪
第二應接室 三三、七八坪
書庫 六、八二坪

金庫 六、一四坪
支店長室 四、八〇坪

二階 一八三、七五坪
各室實用面積（壁内法計算）。

第三應接室 七、九一坪
第二階段室 五、一七坪
給仕室 二、〇二坪
會議室 一五、七〇坪
第四應接室 七、九一坪
第五應接室 七、八七坪
第六應接室 四、九九坪
營業室上部吹抜 七六、三二坪
同上廻廊 一九、〇七坪
三階 一七、七一坪
各室實用面積（壁内法計算）。

各室實用面積（壁内法計算）。

階段室 七、一五坪
書類庫 八、〇〇坪
建物高さ 地盤面よりパラベット上端迄四十八尺四寸。
構造概要
基礎 地盤面以下十三尺掘下げ硬質層に達せしめ鐵筋コンクリート造りとす。
壁體 鐵骨鐵筋コンクリート造。
床 鐵骨鐵筋コンクリート造。
屋根 鐵骨鐵筋コンクリート造陸屋根。
外部仕上げ及設備
壁面 正面及右側面全部並に左側面一部は北木産花

崗石を張立て軒廻りは人造石洗ひ出しとし左側面一部及背面は人造石洗出し及モルタル塗とす。

屋根 フレキストーン張りの上四半形伸縮目地付モルタル塗の鋪装を施しパラベット裏面はフレキストーンを張り頂部迄折り曲げアスベストスタイル塗の上モルタル仕上とす。

窓 内外二重の上げ下げスチールサツシュとし外側にはマシン硝子を内側には金網入磨硝子を嵌め其中間に大阪鐵扉製作所製の捲上げ防火扉を設く。
入口 鐵製とし更に巻上げ防火扉を設く。
堅樋 建物背面に設け鐵製二重とし其中間にコルク粒を充填し内部に蒸気管を通し耐寒の用意とす。

内部雜作

床 客溜及保護預庫床タイル敷、地中階階段室廣間及ブース床タイルモザイク、乾燥機室及三階書庫床モルタル塗其他各室床リノリューム敷。
天井 總て漆喰塗壁。
壁 總て漆喰塗にして支店長室、會議室及第一より第六までの各應接室は壁紙張とす。
腰羽目 客溜、地中階階段室及廣間は大理石張、保護預庫周圍廻廊はタイル張、會議室及支店長室はチーク及櫨製腰羽目を設く。
營業室取引臺 延長九十五尺大理石張りとし上部に青鋼製スクリーンを設く。
保護預庫 金庫、書庫、内部床壁天井共ステイルライニングを施し入口扉マンホール扉共米田モスライ會社製とし金庫及書庫内には東京家具製作所製

鋼鐵棚を据付け保護預庫には竹内金庫店製鋼鐵保護預筐を据付く。

附屬家

建坪 八七、九五坪

總延坪 一〇八、九五坪

内 譯

地中階 二一、〇〇坪

各室面積

汽罐室 一六、三四坪

石炭庫 四、六六坪

一 階

各室面積

玄關 二、〇〇坪

廣間 五、〇〇坪

廊下 八、五〇坪

外寢室 五、〇〇坪

小使室 四、〇〇坪

第二豫備室 六、二五坪

湯沸所 六、二五坪

物置 一、〇〇坪

第一豫備室 一、〇〇坪

食堂 一五、〇〇坪

洗面所 二、〇〇坪

便所 四、〇〇坪

渡廊下 八、九五坪

建物高サ 地盤面より軒上端迄十五尺九寸

構造概要

基礎 地中階の部は地盤面より十二尺五寸掘下げ鐵筋コンクリート總地形とし其の他は杭打。

床 鐵筋コンクリート及木造

壁體 鐵筋コンクリート造

屋根 鐵筋コンクリート造陸屋根造

外 部

壁面 モルタル塗

屋根 フレキストーン葺

窓 スチールサツシュ建

入口 木製扉建

壁樋 建物背面に設け鐵製二重とし、其の中間にコルク粒を充填し内部に蒸汽管を通し耐寒を留意とす。

内 部

床 便所、洗面所はタイル敷、玄關、廣間、渡廊下は人造石磨き、湯沸所、外寢室及地中階はモルタル塗、食堂第一豫備室及廊下リノリウム敷、第二豫備室物置板張、小使室畳敷。

壁 一階は漆喰塗、地中はモルタル塗、便所、洗面所腰廻りはタイル張。

天井 總て漆喰塗

附屬工事

塀 高十尺迄延長九十間二分鐵筋コンクリート造とし、三箇所に門を設け、内正面ニテ所は鐵扉を建て背面一ヶ所は木製扉を建つ。

胸寄せ 正面左右ニテ所に設け、ブロンズ製の柵を建つ。

煙突 地中階の部は地盤面より十二尺五寸掘下げ鐵筋、附屬家北側汽罐室に接して設く。

鋪裝 正面空地は大部分花崗板を以て鋪裝し、正面左側門前竝に本館右側空地より附屬家に接して裏門に連する迄、コンクリート打モルタル仕上げの鋪裝を施す。

構内下水 内法一尺角コンクリート製暗渠として正面市設下水溝に放流す。

附帯設備 小樽市電氣局より電燈用单相百ヴォルト、動力用三相二百ヴォルトの供給を受け別館渡廊下に配電盤を設け分配盤を経て配電す。

隱蔽コンセント式とす。

電燈數一五〇個、コンセント五〇個、スイッチ五〇個。電動力淨化槽用二馬力、本館地中階の温氣兼換氣用一馬力。

照明 半間接及直接照明を採用、大部分特製器具を使用す。

正面入口には高さ十一尺、臺の直徑四尺、ブロンズ製大スタンド二臺を設置す。

電話 本館營業室内に共電式一座席交換臺を置き其の容量は局線五回線、私線二十回線とし、實裝は局線三回線、私線十五回線とす。

信號裝置として別に電鈴裝置を設く。

避雷針 附屬家煙突上に避雷針一本を設置す。

暖房設備 低壓蒸氣直接暖房式とし附屬家、地中階汽罐室内に米國アメリカンラヂエーター會社製アイデアル・スモークレス二十九吋四、〇〇〇平方

貯容量の汽罐二臺を設置し兩建物内總放熱器面積
三、二〇〇平方呎により煖房す。

放熱器はピヤレス型とし外氣溫度華氏五度の場合
各室を華氏六十五度及六十度に煖房するものとす
本館地中階乾燥機室に一馬力電動機にて運轉する
空氣清淨器はエイロフィンヒーター装置をなし地
中階の煖房及換氣作用をなす。

衛生設備 給水方法は小樽市水道に直結し供給を受
くるものにして、湯は局部的に瓦斯ヒーターを使
用して供給す。

便所は水洗式とし汚物汚水は淨化槽に依り淨化し
他の汚水と共に二馬力電動機にして揚水し下水に
放流す。

各衛生配管は夜間水を抜き其の氷結を防ぐものと
す。

建築工事設計監督

曾禰中條建築事務所

建築工事請負者

竹 中 工 務 店